

にぎわい

日本海にぎわい 交流ネットワーク通信

会員だより

青森県 小泊村

小泊沖にウスマバルの高層マンシヨン設置

日本海に突き出た海拔 229m、断崖絶壁の権現崎。ここは古くから「美しい岬」「神の岬」「航海の目印」として深く崇敬されてきた岬です。

この岬を挟むように小泊港と下前港があり、沿岸を対馬暖流、沖合をリマン寒流が流れていることで良好な漁場や磯資源に恵まれ、メバルや活ヤリイカは中央市場でも大きな需用があり、その水揚げ基地となるのがこの両港で大変な賑わいになります。特にメバルは全国的なブランドして確立し、「海峡メバル」の名称で多くの方に喜ばれています。

しかし、近年は漁獲数の減少傾向が続いており、資源の枯渇が懸念されることから、この回復について各方面に要望してきたところ、県が事業主体となり、国内では山形県沖に次ぐ2例目となるウスマバル増殖用漁業として、高さ35mの「鋼製高層増殖磯」を設置し、開発面積54.22ヘクタール、造成規模65,726m³を実施することになり、平成12年度から事業に着手されました。

この増殖場造成事業で漁家の経営改造を図ることが大きな目標となるが、魚礁の設置で漁場利用計画が構築され、青森県日本海機船底曳網漁業者会が造形区域における操業自粛を、小泊、下前両漁業協同組合がウスマバル着底基質周辺での漁業操業自粛を互いに書面で申し合わせをし、事業効果の一層の発揮に努める事になり、これを契機に、資源管理型漁業が推進され、漁業の振興に繋がることを期待しています。

イカが主要魚種の村、小泊は、近海は勿論、遠方のスルメイカを求め日本海沿岸に船団で出漁していますので、貴港で小泊村の漁船を見かけた節はお声掛けをを宜しくお願い致します。



「鋼製高層増殖磯」



秋田県 男鹿市」

豪華客船「飛鳥」による北海道クルーズ

男鹿市では一昨年、市制施行45周年記念事業として、豪華客船「飛鳥」をチャーターし、北陸金沢への旅「日本海クルーズ」を実施しました。「飛鳥」は平成8年、本市船川港に初寄港以来、毎年本市を訪れていますが、市民が乗客となって出港するのは初めてのことでした。おかげさまで市民を中心に多くの方々の参加をいただき、大変好評を博しました。船旅は、通常の旅行では味わえない様々な楽しみ方があり、参加者の皆さんはそれぞれ思い思いのクルージングを満喫されたようで、「また企画して欲しい」など多くの声をいただきました。

そこで、多くのご要望に応えようと一昨年と同様に実行委員会を組織し、船川港と釧路港を結ぶ船旅と北海道観光をお楽しみいただく飛鳥クルージングを企画しました。本年8月31日から2泊3日の予定で船川港を出港いたしますが、市民はもとより県内各地から問い合わせも多数寄せられており、前回同様、すばらしいクルージングとなることでしょう。

本市は、日本海に突き出た半島で、三方が海に囲まれており、海を介して、歴史・文化を育んできた地域です。また、現在の船川港は昭和二十六年に重要港湾の指定を受け、地域を支える港として、その役割を担ってまいりました。このように本市は海と大変深い関わりがあり、この飛鳥クルージングの実施は、船川港の利用促進と活性化を図るとともに、多くの方々から港や海に関心をもっていただきたいとの願いが込められております。



飛鳥」



船内風景」



飛鳥クルーズ」

「山形県 酒田市」

酒田市は、山形県の北西部、日本有数の穀倉地帯である庄内平野の要に位置し、県内を貫流する最上川の河口に開けた歴史ある港町です。

今から330年程前の江戸時代中期に、豪商河村瑞賢によって「西廻航路」が拓かれ、最上川舟運と日本海沿岸海運を結ぶ河海運送の物流拠点として数々の廻船問屋が軒を連ね、「西の堺、東の酒田」と謳われるほどの隆盛を極めました。



近年、酒田港は、平成4年に中国黒龍江省とつなぐ「東方水上シルクロード」や平成7年に「出羽富士(鳥海山)を背にする酒田港」酒田-韓国釜山コンテナ港路が開設されるなど日本海対岸貿易を中心に世界各港と結ばれ、貨物取扱量が順調に伸びております。また、中国、韓国などの北東アジア圏の国際物流の拡大に対応するため整備が進められてきた「酒田港国際ターミナル」が平成12年7月に供用されました。ガントリークレーンを備えた外貿コンテナターミナル内には、通関、混載仕分けのできるCFS上屋も設けられ、港湾機能が一層強化されています。

平成13年秋には、山形自動車道が、酒田港に近い「酒田みなとインターチェンジ」まで開通します。全線開通によって宮城県仙台～山形県酒田間が2時間半で結ばれることにより、酒田港の背後圏の拡大が図られ、日本海側と太平洋側を結ぶ最短ルートとして、経済交流の進展、更なる港勢の拡大が期待されています。

酒田港にフェリーを！ 酒田港フェリー航路誘致協議会設置



設立総会で挨拶する阿部酒田市長」

平成12年11月29日、酒田産業会館に於いて「酒田港フェリー航路誘致協議会」設立総会が盛大に行われました。

酒田港では、平成11年度に運輸省(当時)酒田港湾工事事務所、山形県、酒田市の三者が共同してフェリー航路開設の可能性調査を行いました。調査は、酒田港から他の港へ運ばれる荷物量の予想分析を中心に行われ、年間利用予想量がそれぞれ6万トン、14万トンと積算されました。北海道道南、関西方面に対しては、十分に就航の可能性があると報告し

ています。

今回、山形県内の企業・港湾振興団体・商工会議所・関係官公庁が一緒になって、フェリー誘致のための活動を行っていく必要性が確認され、71の企業・団体の賛同を得て協議会が設立されました。総会では、冒頭、港湾所在地の代表として挨拶にたった酒田市長の阿部寿一氏が「荷物を集める苦労やフェリー会社の就航への理解など課題はたくさんあるが、集まってくれた皆様と一致団結して解決しなければならない」と心構えを話しました。次いで、新たに会長に選任された、山形県商工会議所連合会会長の鈴木傳四朗氏が「目的を一つにした人達がたくさん集まってくれてうれしい」との挨拶がなされました。

協議会では、今後、フェリー会社や山形県関係機関への要望やお願い、将来的な利用荷物を獲得するための企業へのPR活動を行っていくほか、効果的な誘致方法の検討を行っていきたいとしています。

対外貿易拡大、中国直行コンテナ航路開設に向けて！

韓国航路釜山コンテナ航路に続く酒田港の国際定期コンテナ航路として中国に照準を合わせ、この2月12日から16日まで「中国ポートセールスミッション」が派遣されました。

ミッションは、酒田市長の阿部寿一氏を団長に、山形県・酒田市議会・港湾運送業者・貿易振興団体などが参加し、大連港務局、上海港務局、日本からの進出企業などを訪問し、新規航路の開設と貿易拡大を働きかけました。

北前船市町村長サミット開催！

平成13年8月4日(土)、酒田市に於いて、第5回北前船市町村長サミットが開催されます。サミットは、「北前船」によるまちづくりを進めている市町村が集い、歴史・文化を基調として自治体間の連携をはかるものです。

「北前船」とは、豪商河村瑞賢によって拓かれて「西廻航路」に就航した大型和船です。船の積

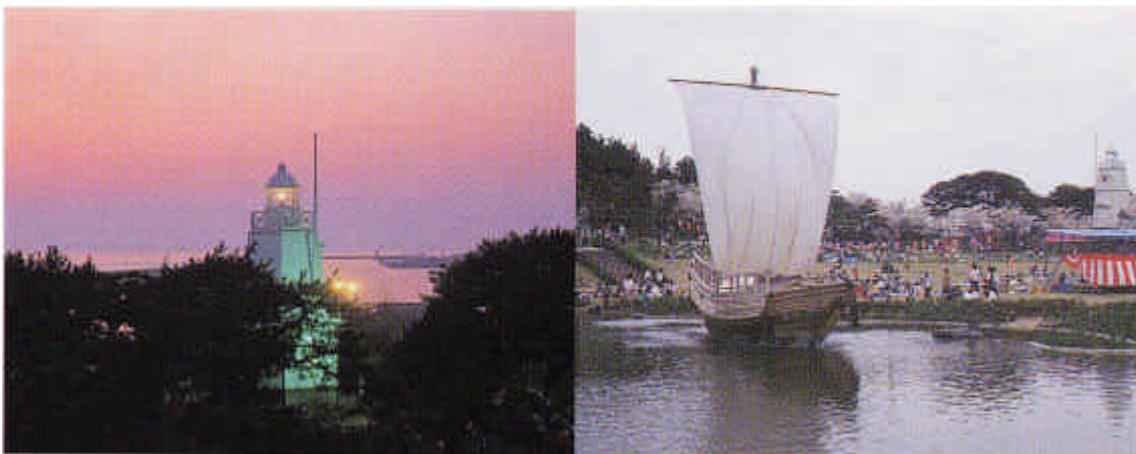


載量は250石積
「日和公園から酒田港を見下ろす河村瑞賢」
から2,000石積(米300万トン)積にまで 及んだといわれ北上する際には、酒、たばこ、木綿、砂

糖を運び、南下する場合には北海道などで仕入れた昆布やニシンなどの海産物を積み日本海を往来しました。

また、商品の売買だけでなく「北前船」は各寄港地の様々な文化交流を促し、酒田市には、当時の雛人形などが残されています。

「北前船」の往来した往時の歴史遺産が、港町酒田の今日のまちづくりにも活かされています。



「日和山公園」

編集後記

東北地方整備局が1/6に発足し、初めて「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信」を担当することになりました。今まで続いてきた「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信」に参画出来たことを非常に嬉しいと思います。今回の編集に当たっては、どのように表現すれば各県の特徴をうまく伝えることが出来るかと言うところに苦労しました。ただ、実際出来上がってみると我ながら上々の出来映えだと自画自賛しております。(笑)

また、情報を提供して頂いた各管理者の皆様には大変感謝しております。ありがとうございました。

これからも、「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信」の業務に携わって行くこととなりますが微力ながら皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

今後とも、皆様と一緒に、本協議会を盛り上げて行きたいと思っております。(大場)

編 集

東北地方整備局 港湾空港部 港湾計画課

調査係

TEL 022-716-0005

FAX 022-716-0018